

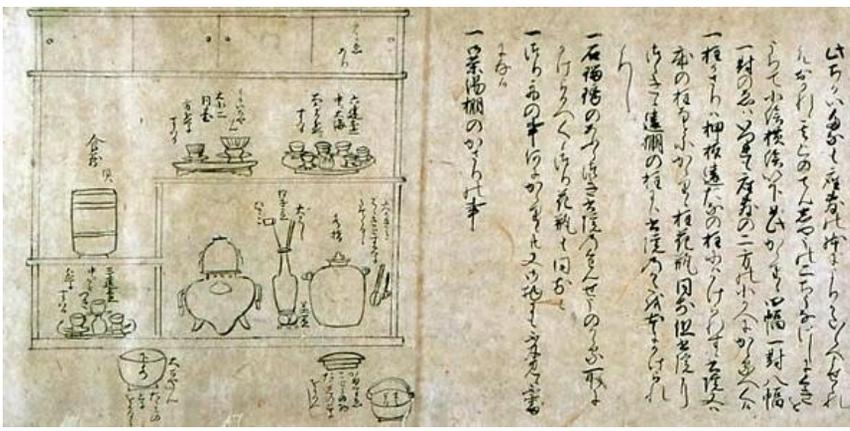
# 片山タイムズ

第二号  
令和四年  
六月吉日

## 風炉のお稽古

5月より風炉のお稽古になりました。半年前を思い出しながら、戸惑いながらのお稽古の方もいらつしやうに思います。

もともと千利休以前の茶の湯は、風炉で湯を沸かして右帳記。これは室町時代に書かれた「君台観左右帳記」(くんだいかんそうちょうき)の記載からわかります。左記の挿絵のように切掛



君台観左右帳記(くんだいかんそうちょうき)の挿絵

風炉によって湯を沸かすしつらえとなっています。イメージ的には炉から風炉が派生したと思っいる方もいらつしやるかもしれませんが、実は風炉の方が時代的には古いと思われまます。風炉が日本に導入されたのは茶の湯が大成されるずっと前、鎌倉時代初期に中国から伝来されたとされています。



風炉のお稽古の様子(牧野さん)

## 募集！風炉の灰形の練習してみよう

灰形を勉強したい方、眉風炉と灰をお貸しします。自宅ですっきり時間をかけて是非練習してみてください。

灰形がうまくなるコツは・・・ひたすら何回もチャレンジすることです。お稽古時にお申し付けください。

## ある日のお稽古の茶花



## ピヨウヤナギ・シモツケ・ナデシコ

シモツケは名前の通り下野の国、現在の栃木県で発見されたお花です。初心者でも栽培しやすい茶花ですので、チャレンジしてみてください。今回の花入れは、生徒さんが昨年オンラインで京都の三木竹材店のご主人に習って作った「ちまきかご」です。

来月には祇園祭が開催されますので、それにちなんでつかってみました。そろそろ「ちまき」のご利益があつて、やはり病もおさまりそうです。

## 研究会課題の考察

5月の研究会、石田さん・増田さんお疲れさまでした。

今回お二人が大勢の静岡支部会員の前行ったのが、「貴人清次」です。

これを含む「貴人点」の類は、表千家には存在しません。ある意味、裏千家独特のものになります。なぜ裏千家に「貴人点」が生まれたのでしょうか？

社中のみなさん、じっくりと思いを巡らし考えてみてください。ヒントは表千家と裏千家の違いです。

もう少しヒントがほしい方はお稽古中の時にお問い合わせてください。考察については今月のお稽古でお話いたします。

## お稽古道具紹介

### 蝸牛香合(カタツムリコウゴウ)

今月お床に飾ってあるのが、蝸牛香合です。東大寺の古材からつくられています。ぜひお稽古の時にごらんください。

作者は市川銀狼。

1901(明治34)年調布市国領に生まれ木彫や仏画の名工・加納鉄哉(かのうてつきい)さんに14歳で師事。若くして奈良に拠点を移し、金工・木工品、竹などの器物の表面に線刻する「鉄筆(てつびつ)」とよばれる技法の修業を積んだとされます。やがて、奈良一刀彫などの伝統工芸を受け入れながら、茶道具や写実的な表現の丸彫りの木彫床飾りを中心に制作を展開し、多彩な作品を残しているとのことです。

(参照 調布経済新聞)



## 社中旅行について

以前企画していました、京都での絵付け体験・愛知での作陶体験の社中ツアーはコロナ禍ということで延期しています。

10月くらいを目途にそれぞれの作家の先生方と調整をしていきたいと思ひます。ご希望の日程等がありましたらお稽古の時にお申し付けください。